

北秋田市保健センター「子どもの健康を考える会」学習会

「診られる力を育てる」ワークショップ

はじめに

北秋田市では、小中学校の養護教諭と市の保健師が子どもの健康課題に取り組み、事業の一環として「子供の健康を考える会」学習会を開催してきた。今回、子どもたちが、地域を大事にしながら将来を担っていくために、私たち大人が子どもたちに真剣に伝えていかなければならないことは何かを考えるために、「診られる力を育てる」をテーマにワークショップを行った。

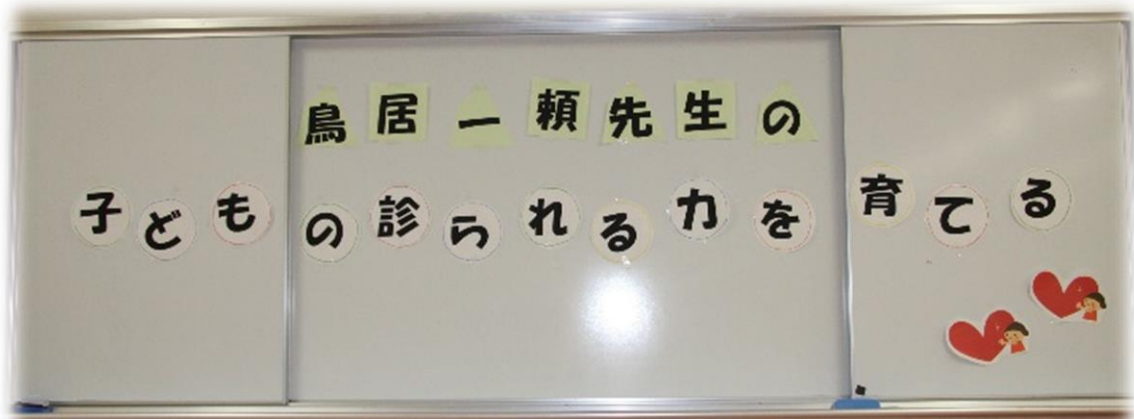
2015年11月19日（木）北秋田市保健センターを会場に、市内の養護教諭、保健師、そして母子健康事業に関わる母子保健推進員や市外から子育て支援に関わる人たち30名が参集した。

「なぜ診られる力を育てるのか」について、講師の鳥居一頼からの講話の後、授業づくりを行うグループワークを行い、出来上がった授業案をグループ毎に発表し全体交流を行った。14:00にスタートした学習会は、予定の時間を40分も超過し、16:40に終了した。ここに、熱心に協議した成果を報告したい。

なお、この学習会には市教育委員会三澤仁教育長も参観していて、学習会の総括コメントをしていただいた。

さらに、教育長を含め、参観された方々からは、ここで提案された授業案について、「医療法人北海道家庭医療学センター」のホームページ上の『診られる力』の「プログラム」に掲載することの承諾を得たこととお断りする。貴重な研修の成果に関心のある多くの方々に広く周知できることを、改めてお礼申し上げたい。そして、今後の実践への大きな足がかりとなることを期待したい。

（文責 鳥居一頼）



1 グループワークについて説明

まず1から3グループは養護の先生がいるグループですから、「保健の時間」で活用することを前提に「授業づくり」をします。

保健の時間については、養護の先生方は手元の資料にある「小学校保健学習の内容マップ」（小学校学習指導要領解説体育編参照）を見られて、この中に「診られる力」の項目がないことを確かめられたかと思います。もちろんそれに関連するところの課題はありますが、その辺についてどのように保健指導の中でこの問題を取り上げて消化するのかということについて考えていただきたいと思います。どんな切り口でも全然かまいませんので、「診られる力」ということを一つテーマにしながら、どうぞ自由に協議しながら作り込みをしていただきたいと思います。

基本的に1時間授業という設定で、授業の目標やその展開もグループに任せます。ただ、一方的に教師がしゃべって、大学の講義のような一斉授業だけはパスしてください。

できれば、保健師さんと一緒に授業を組む、あるいは看護師さんと一緒に授業を組むという形での授業づくりを、1から3までのグループにしていただければと思います。

グループの4、5については、自分で症状を言葉で訴えることの出来ない幼児を持ったお母さんにどんな形で指導するのかという設定で、お母さんの言葉を借りながら子どもの症状を伝えるお母さん方との勉強会といったイメージを作ってください。1対1の対面ではなくて、何か皆さんでそういった勉強会、乳幼児のための母子教室みたいな。そういう場を想定して考えていただければと思います。それから鹿角市や大館市から参加されている方もいらっしゃいますので、その方々もどうぞ積極的に協議に参加していただきたいと思います。

授業の構想は、模造紙を用意しておりますので、そこに直接書いていただいて、とりあえずこういった構想だというポイントがわかればいいかと思います。その後、皆さんから発表していただきますので、その際に補足をしていただきたいと思います。

では、何かご質問はございますか？ 進めていく中で何かご質問があったら、私を呼んでください。それではお願いいたします。時間は1時間です（実際は、70分を要した）。

（説明 鳥居一頼）

2 グループワークの発表

【1G】市保健師2名、小学校養護教諭3名、市外児童指導員1名

私たちの考えた授業は、小学校3年生の保健の授業で、「毎日の生活と健康」という単元があり、そこでちょっと子どもたちの健康について勉強する時間があるので、その時間を使わせてもらいます。

「ねらい」は、まず自分の健康状態に興味を持つ。それから、自分の身体の調子について、ちゃんと自分の言葉でなるべく正確に伝えることができるように育てるといところです。

「導入」は、病気の子どもの、例えば頭痛い、腹痛、それから咳が出るとか、いろいろ具合の悪い子のイラストと、健康な子のイラストをまず掲示して、子どもたちにその子がどういう状態かを想像させます。

その後、いろいろと出ると思うんですが、例えば保健室に来た時に、自分の身体の状態、具合悪くて来た時にちゃんとこう伝えられてるかな？ ていうところを問題提起します。課題ですが、体の具合を分かりやすく相手に伝えようということを目指していきたいと考えています。



1

対象：小学校3年生
単元：毎日の生活と健康
ねらい：①自分の健康状態に関心を持つ。
②自分の体の調子について自分の言葉で伝えることができる。
導入：病気の子どものイラスト、健康な子どものイラストをみせる。子ども達自身に発表させる。保健室来室時に自分の体の状態を適切に伝えられているか確かめる。
課題：体の具合をわかりやすく相手に伝えよう。
展開：保健室での不調の訴えの場面についてロールプレイング（4人ずつのグループ）を行い、意見交換をする。
作業を通して気付いたことを発表してもらう（全体）
まとめ：振り返りシート記入
『いのちとからだの10か条』（抜粋して読む）

「展開」。ロールプレイングしますが、4人ずつのグループを作り、グループワークを最初にします。役割分担は、具合の悪い子ども、それから付添いの子ども、養教、その場面を見ている第三者的立場のひとの4人でグループを組み、ロールプレイングをします。それぞれの立場になってみて、自分で気持ちがわかるようにします。

グループワークの後全体で、こんなロールプレイングをしてみてもう思ったかな？ ということを発表してもらいます。そこで多分、やっぱり正確にわかってもらうには、自分の言葉で、なるべく自分の体のことについて、状態について、正確ないろんな言葉を選んで言わなきゃいけないんだなっていうことを、感じさせ、考えさせたいと思います。

そして、最後に資料の『いのちとからだの10か条』（「ささえあい医療人権センター」発刊テキスト）の中から、全部じゃなくて抜粋したものを提示して、「考えてね」ということを提示して閉めたいと思います。以上です。（拍手）

対 象	小学校3年生
単 元	毎日の生活と健康
ねらい	①自分の健康状態に関心を持つ ②自分の身体の調子について自分の言葉で伝えることができる
導 入	①病気の子どものイラスト、健康な子どものイラストを見せる。 ②気付いたことを子どもたち自身に発表させる。 ③保健室来室時に、自分の身体の状態を適切に伝えているか確かめる。
展 開	①体の具合を分かりやすく相手に伝えよう。 ②保健室での不調の訴えの場面について、4人ずつのグループで ロールプレイングを行い、意見交換する。 ③作業を通して、気付いたことを全体で発表する。
まとめ	振り返りシートの記入 「いのちとからだの10か条」 (抜粋して読む)

(枠内はグループワーク発表における模造紙(写真)への記載内容の整理、以下同様)

【2G】市保健師2名、小学校養護教諭3名、市外児童指導員1名

私たちは「こころの元気 からだの元気」ということをテーマにして話し合いを進めました。

「こころ」の問題をテーマにしようと思ったのは、先生たちの立場でもなかなか触れにくいデリケートな問題であり、そして子どもたちにとってもやっぱり難しい、自分たちでどう対処したらいいのかわからない難しい問題だということで、まずここで改めて「こころ」をテーマに授業を一つやってみようと考えました。

「ねらい」ですが、その学年によって到達度をみるのも大事ですが、指導の内容レベルは変えながらやりたいと思います。私たちは今回、中学年を中心に授業を行います。低学年と違って「死ぬ」などの感じる意味も少し深くなってきて、それでも高学年まで上手に言葉で伝えることがまだ難しいかなといったところで、中学年を対象に考えた授業にしました。

「ねらい」は、「こころと体のつながりに気づいて元気になる方法を考える」というところを最終目標に行います。

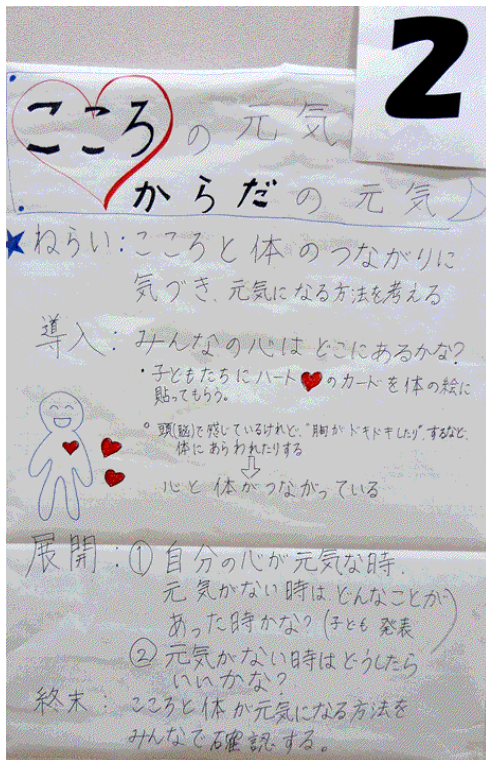
「導入」ですが、まず授業の初めに大きい模型、体の模型を黒板に書いたり、自分の体でもいいと思うんですが、ハートの絵を一人ひとりに配って、「みんなのこころは、どこにありますか？」という質問から始めます。

実際にこういった質問をしたことがある学校があり、胸に貼ったお子さんが多かったとか。あとは学年によっては、もしかして頭に貼ったとか、いろいろあるかもしれませんが、ここで、「どうしてそこに貼ったのか？」ということ、子どもたちに聞くところから始めてみたいと思



います。

たとえば、心に貼って「どうしたの？」と聞かれると、私だったら、緊張したとき胸がドキドキするとか、うれしいとき心があつたかくなるとか、こころの症状として感じるものがありますよね。そういうのがあるのは、「こころと体は、つながっているからだよ」ということを伝えます。共感を得られたら、次の展開として、自分の心が、「じゃあ元気な時、そして元気がない時は、どういうことがあった時かな？」と、子どもたちに問いかけて、発表してもらいます。



その次に、「元気がないときはどうしたらいいか？」について意見をだしてもらいます。自分が元気になる方法を、今はどういうふうに対処しているかというのを聞いたり、相談をしながら自分たちで考えてもらいます。

そして、話し合いの最後はどこまでたどり着くかは、その子どもによって違うと思うんですが、こころと体が元気になる方法をみんな確認して、「こういう時はこうしたらいいよね」というのが意見が出るころまで話し合いが出来たらいいなと思っています。

今日、先生のお話でもあった「診られる力」もつなげて考えたんですが、テーマは「こころ」でした。自分のこころの状態、こころと体はつながっていて、こころの症状がある時は、体も元気がなくなったりするっていう、そういうことが誰にでもあるんだという状態を知る、言葉で伝える力を育てるというふうを考えてほしかった授業です。これで2班の発表を終わります。（一番若い保健師さんの初々しい発表に激励の拍手）

対象 小学校3、4年生

テーマ こころの元気 からだの元気

ねらい こころと体のつながりに気づき、元気になる方法を考える

導入 ①みんなの心はどこにあるのかな。子どもたちにハートのカードを体の絵に貼り付けてもらう。

②頭(脳)で感じているけれど、“胸がドキドキしたりする”など体に現れたりする
→心と体はつながっている

展開 ①自分の心に元気がない時は、どんなことがあった時かな？ 子どもに発表してもらう。

②元気がない時はどうしたらいいのかな。

まとめ こころと体が元気になる方法をみんな確認する。

【3G】市保健師2名、中学校養護教諭3名、市外生涯学習職員1名

私たちは、保健室の利用について、具合が悪くなったときに保健室にどういうふうにして来室するかという日頃の様子を養護教諭の先生方から出してもらい、そこで聞く生徒さんのお話をもとに、この『いのちとからだの10か条』の中で、特に3番から7番までのところは中学生には特に必要とされるところで大事だよねという話し合いからグループワークを始めました。



この授業で「ねらい」としているところは、自分の言葉を使って自分の症状をお医者さんに伝えることが出来る様に子どもたちに気づきを与えることです。

対象にする人は阿仁中の2年生です。授業を行うのは、養教の先生と、保健師も各地区の担当がいますので、阿仁地区担当の保健師が行って授業をすることにしました。

どの科目でやるかについて、をすごく時間を割いて話し合いをしたのですが、ここの学校では学活の保健指導の時間を使わせてもらうことにしました。

授業の流れは、導入として最初に先生方と保健師と養教の先生が、2つのシミュレーションを見せます。

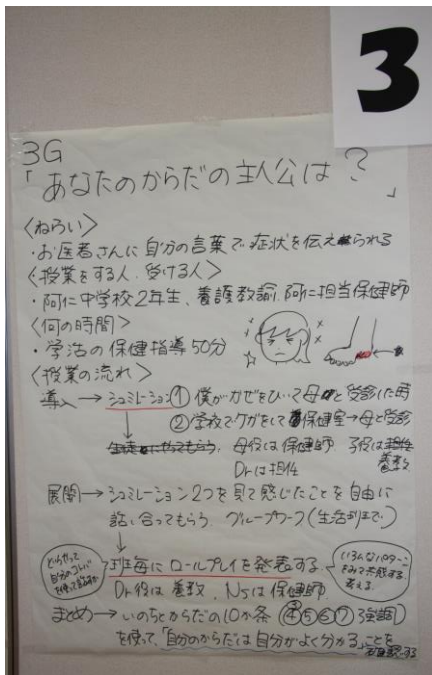
1つ目は、朝に子どもの具合が悪くてお母さんと病院に行くんだけど、診察室に入ったら、あれこれ全部お母さんが医師に症状を伝えてしまうパターンのミニ劇場を見せます。

2つ目は、学校で部活か体育の時間にケガをして、保健室に行くという想定です。保健室で養教の先生がいろんな話を聞き出してくれて、「この症状では病院受診が適当かな」ということで生徒から自分の言葉を引き出して、症状などの整理がついて受診に結びついたのだけれど、子どもがお母さんや医師にちゃんと症状を伝えられなくて、結局あまりいい治療を受けられなかったというパターンのミニ劇場です。

その後、子どもたちにこの2つのシミュレーションを見て感じたことを、生活班のグループに分かれて自由に話し合ってもらいます。ただ、いつものグループワークの流れだと紙に書いてまとめてみるんですが、私たちのグループでは、さらに子どもたちにロールプレイで発表してもらうことにしました。

子役と母親役とドクターとかの役をしてもらって、ミニ劇場をグループごとに発表してもらうことにしました。班ごとに全員発表してもらいますが、自分の言葉をどうやって使うとか、よその班がどうやって発表しているのかを見て、共感したり、「ああ、自分たちはこう考えたのにな」というのを考えてもらいたいと思います。

「まとめ」は、最初に戻って、3番から7番までの10か条が大事だということを紹介して、最後は「自分の体は、誰でもない自分が一番よく知っているんだ」ということを強調して終わる授業にしたいです。授業のテーマは「あなたのかからだの主人公はだあれ？」というテーマにしました。以上です。（拍手）



テーマ	「あなたのからだの主人公は？」
ねらい	医師に自分の言葉で症状を伝えることができる
対象	阿仁中学校2年生 指導：養護教諭、阿仁担当保健師
単元	学活の保健指導 50分
導入	保健室の日常から・・・ミニ劇場（子：養教、母：保健師、医師：担任） ① 風邪を引いて母と受診→診察室で母が全部受け答えするパターン ② 学校でケガをして母と受診→養教とは保健室で症状を整理したがうまく診察室で伝えられなかったパターン
展開	①ミニ劇場を見て感じたことをグループワークで自由に話し合う ②どうやって自分の言葉で話すのか班毎にロールプレイを発表 （保護者と子役：生徒、医師：養教、介助看護師：保健師）
まとめ	いのちとからだの10か条（③④⑤⑥⑦）を使って、「自分のからだは自分が良く分かる」ことを確認する。

【4G】市保健師1名、母子保健推進員1名、

市内認定こども園看護師1名、市外児童指導員1名

私たちのグループは、乳幼児をもつお母さん方を対象にお話をするという想定で話し合いを進めました。

「導入」として、「いつもと子どもの様子が違うと感じた時、受診するかどうか迷うことがありますよね？」と声をかけてみます。きっと、お母さん方から、「けいれんを起こした」「熱が

あがった」「けがをした」など、いろいろな症状が出ると思います。その時にお母さん方から、一緒に出る不安な気持ちも出してもらいます。

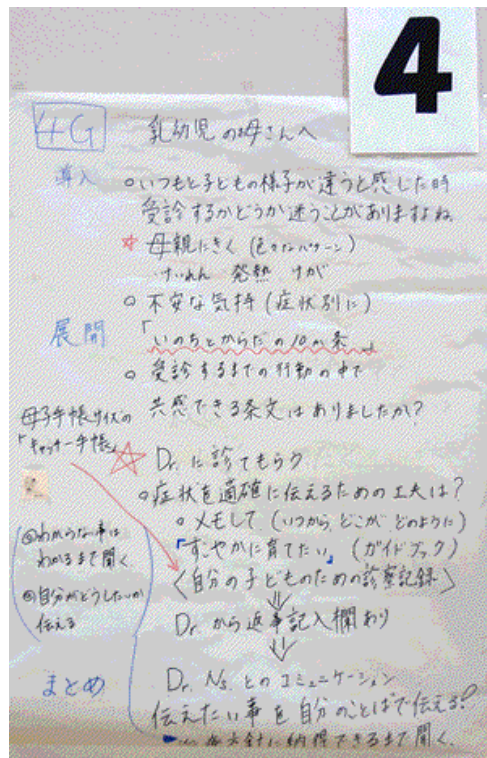
「展開」として、『いのちとからだの10か条』を挙げて、これを読んだ後に受診するまでの行動の中で、「この10か条の中に共感できる条文はありましたか?」と、お母さん方にお聞きします。

その後、医師に診察してもらう時に、症状を的確に伝えるために工夫をしなければいけません。10か条の4番にある、「お医者さんには自分で症状を伝えよう」というカードを利用します。お母さんには、受診する場合は、「いつから、どこが、どのようにというふうにメモをした方がいいですよ」と、お話をします。

このグループで一番メインに話し合ったのが、「子どものための診察記録みたいな手帳があればいいな」ということでした。小さな病気でも、入院した場合でも、全部そのことを手帳に書いておいて、その後は、できればドクターから返事やハンコでもいいので記載してもらおう、っていうふうな手帳があるといいなと話し合ったんです。

母子手帳のほかに、お母さんとしても、自分は子どもが病気した時にこういう対応ができたんだとか、こんなに病気をしたんだけどおっきくなつたなって、後で振り返る時にもとてもいい手帳になる、こういう手帳があったらいいなと考えました。

そこで、一応名前も考えました。母子手帳サイズで、北秋田市保健センターのころといのちのマスコットキャラクター「キャッチー」というのですが、「キャッチー手帳」と名前ももう決めました。(笑)



お母さんたちが正確に、簡潔に症状を伝えることも大事なんですけども、自分の子どもをみるうえで、やっぱり医師と看護師、そしてお母さんたちのコミュニケーションが大事だなと思いました。

伝えたいことを自分の言葉で伝えるとか、あとは分からないことは、『いのちとからだの10か条』にもあるのですが、治療方針で分からないことは分かるまで聞くとか、自分がどういうふうに治療に参加したいのか、あとはどういう治療を希望するのかを伝えるなども、できればお医者さんに伝えられたらいいなと話し合いました。

「まとめ」としては、治療方針にお母さんが納得できるまで聞くことが、自分の子どもの健康を守るうえで一番大事じゃないかなということで話し合いを終えました。以上です。(拍手)

対 象 乳幼児をもつ保護者

導 入 ①「いつもと子どもの様子が違うと感じた時、受診するかどうか迷うことは
ありませんでしたか。」とお母さんに 投げかける。
(発熱、けいれん、けが等)

②症状別に不安な気持ちを話してもらう。

展 開 ①診察を受ける時に症状を的確に伝えるための工夫は。
メモ (いつから、どこが、どのように)

②医師や看護師とのコミュニケーション『キャッチー手帳』の利用。
子どもの診察記録。医師の記入欄も有り。

まとめ 分からない事は分かるまで聞くことができるように。
自分がどうしたいか伝えられる。

【5 G】市保健師 1 名、母子保健推進員 4 名

5 グループは、皆さん母子保健推進員さんということで、いろいろざっくばらんに出た意見を箇条書きにした感じなので、ちゃんとまとまっていない部分もありますが、出た意見を発表したいと思います。

まず「上手な医療機関のかかり方」ということで、子どもに代わって保護者の「診られる力を育てる」ということで考えていきました。

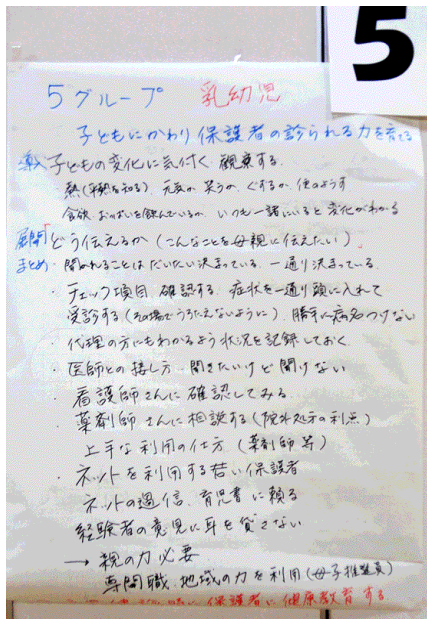
場所は、乳児検診の場で保護者に健康教育をするというイメージでやります。

そこで、子どもの変化にまず気づく、観察するというところで、普段の平熱とか、元気かとか、笑うかとか、平熱を知るとか、食欲あるかとか、おっぱい飲んでるかとか、いつも一緒にいると変化がわかるだろうということで、そういう変化の観察の仕方などをお話しします。

その後「展開」としては、そういうのをどう伝えるかということで、大体病院で聞かれることは一通り決まっているという皆さんの意見がありまして、チェック項目を確認しておく、症状を一通り頭に入れて受診する、その場でうろたえないようにするということです。ドライブスルーに行ってメニューをずっと見てたのに、その場でうろたえてしまうっていうのが多いんですけども、その場でうろたえないように一通り頭に入れておくということです。そして、勝手に病名をつけてしまわないということ。また、代理の方にもわかるように、状況を記録して、そのメモを持たせるということが出ました。

お医者さんとの接し方としては、聞きたいけども聞けなくて帰ってしまう場合や、納得するまでなかなか聞けずに帰ってしまうんですけども、そういう時は看護師さんに確認してみたりとか、薬剤師さんを上手に利用をして、院外処方の利点だとも思うんですけども、薬剤師さんに相談するのもいいんじゃないかという意見もありました。





それから、今ちようどおばあちゃんになっている方でお孫さんを見たりとか、託児をしている母子保健推進員さんもいるんですけども、今のお母さんはネットを利用する若い保護者が多くて、ネットを過信したり育児書に頼りきっている傾向があり、経験者の意見に耳を貸さないという傾向があるので、経験者の意見も聞くようになることも必要だということです。

最後は、やっぱり親がしっかりしていないといけないということで、親の力が最後は必要なもので、そのためにも専門職や地域之力、特に母子保健推進員さんとかいますので、そういう人も利用することが大切だという意見が出ました。以上です。（拍手）

ねらい 子どもに代わり保護者の診られる力を育てる

対象 乳幼児をもつ保護者

導入 子どもの変化に気付く、観察するポイントつてなかに。
熱（平熱は）、元気、笑う、ぐずる、便の状態、食欲、おっぱい
～いつも一緒にいると分かる変化に気づく～

展開 受診した時に、医師にどうやって伝えるか考える
（※母子保健推進員としてこんなことを母親に伝えたいという視点で話し合う）

まとめ ①受診時に聞かれるであろうチェック項目を確認する
②症状を頭に入れて受診する（その場でうろたえないように）
③勝手に病名をつけない
④代理の方でも分かるように状況を記録しておく
⑤医師との接し方（聞きたいけど聞けない）
・看護師に確認してみる・薬剤師に相談する（院外処方の利点）
⑥ネットを利用する若い保護者、ネットの過信、育児書に頼る
・専門職・地域之力を利用する（母子保健推進員）
・乳幼児健診時に保護者に健康教育をする

【鳥居】皆さん、短時間のグループワークにも関わらず、様々な観点から多彩なプログラムを作り上げていただきありがとうございます。今日の「まとめ」を三澤仁教育長にお願いします。

3 総括コメント～三澤仁教育長

市の教育委員会の三澤といいます。今日は鳥居先生の授業を見に来たつもりで、ただ黙って見てればいいのかなくて安心していたら、当てられてしまってドキドキしてます。おととい、最後の60代の誕生日を迎えまして、残り少ない人生になってしまいましたが、充実したしっかりとした生き方をしていきたいなど改めて思っているところがあります。



ここに教え子も何人かいますが、同じ「診られる力」をどういうふう育てるか、対象はみんな違うんだけどね、びっくりしました。対象に応じた流れを、皆さん一生懸命考えて、これは見事な作品だと思いますよ。是非、実際に授業をやらしてもらえれば面白いんじゃないか。養教の先生方、これを持ち帰ってやってみてください。担任といっしょに。きっと面白い授業になると思いますよ。

私ね、限られた時間内で、果たしてできるかなって思って心配しておったんですが、ものの見事に、やっぱり切羽詰まれば何とかなるもんなんでしょうね。(笑) そういう人間の力、持つてる力というのは、大したものだなと感心して見ていました。

さて、最近小児科医のなり手がいないという話を聞くんですよ。なぜ小児科医にならないかという、難しいんですよ。赤ちゃんは自分の言葉で自分の悪いところを言えない、どこが悪いのかわからない、子どもは泣いて訴えるだけでね。あるいは吐いたりとか、下痢したりとか。そういった体をもって訴えるしかないものですから、とてもお医者さんは分からないんだそうですよ、難しいと。言葉があればね、自分の状態を発するけども、赤ちゃんは言葉を持たない。従って何かあると訴えられる。賠償しなければならぬということ、小児科医のなり手がいないというんですね。

いかに言葉が大事であるかということ、証明してると思います。もちろん言葉は大事ですが、その言葉をどのように組み合わせ、どのように発するか、これもとても大事ですね。

私は、いろんな方の講演を聴きますが、なんぼ立派な先生でもさっぱりつまらない場合があります。これは難しい話をね、そのまま難しく話しするから。聞き手は飽きてしまう。言ってることがわからない。逆に、難しいんだけど、いろんな方法、道具を使ったりね、わかりやすく表情豊かにユーモアをもってお話しされると、ついつい引き込まれて眠れなくなってしまいますよね。だから言葉の持つ力というのは、その言葉をいかに駆使するか、そういったことが技術的にも求められてくると思います。

私はいまも見ていますが、やっぱり授業なんですよ。子どもたちが生き生きしてる授業、あるいはそうでない授業、それはひとえに力のある教師とない教師の差、なんですよ。やっぱり力のある教師というのは、もうここでまず「ねらい」がはっきりしてるんですよ。そして「導入」。導入が立派。コンパクトでインパクト。この導入でもって、その1時間の授業が決まってしまう。どういふのを持ってくるか、何するか、何を使うか。それによって後の「展開」が良くもなるし、悪くも、動かない場合もあります。

導入でね、十分に子どもの気持ちを引き付けて、先生の手ひらに乗せてしまうか。これがいい

い授業の要素だと思います。そういうふうな授業をやる先生の子どもたちは、本当に生き生きして積極的に意欲的に発表する。おそらく鳥居先生のお話は、子どもたちはもう、ニコニコしてね、楽しくてしょうがないと思いますよ。

そういうふうな授業すると、やっぱり言葉をいかに使うか。言葉は生きてる。私は、人間の心ってというのは言葉でできてると思ってます。だから、その言葉を大事にしてうまく使う。これは先生方にもお話していますが、言葉をどういうふうにするかが、いい教師になるための「一番の条件」でないかなと思ってます。

私は、その言葉の使い方がよくわからないんだけど、この授業も対象の子どもたちによって、言葉もいろいろあるし、小さければ小さいほど難しいですね。私も小学校、中学校に行くけども、小学1年生を相手に話すのが一番難しい。長くてもだめだ、難しくてもだめ。本当に噛み砕いて、本当にここに届くかな、届かせようということは思っているつもりで、まえもって自分の話すことを、自分自身でそうやって話ししなければ、小さい子どもは聞きません。中学生になればね、まずその場その場で反応みて話をすればいいんだけど、そういうふうな難しさがあります。

どうか皆さん方も、言葉を磨いて、相手の心に届くようなお話を、これからもたくさんしていただければ、子どもたちもきっと皆さんに惹かれて、思っていることを何でも言えるような子どもたちに育つんでないかなと思ってますんで、これからもがんばってください。(拍手)



4 感想とまとめ

【鳥居】三澤教育長、ここに沁みるお話ありがとうございました。皆さんがこれだけ短時間でまとめられたことは、改めて本当にすごいなって驚いています。次にワークショップの感想をお聞きしたいと思うんですが、名簿の一番目に出ていらっしゃるのがT小学校養護教諭のT先生。どちらでしょう。突然でごめんなさい。感想を一言お願いできますか？

【養護教諭T】はい。最初研修会の案内をいただいた時に「診られる力」って何だろうってすごく興味を持ったんですけども、こういった話を聞いたり、皆さんの発表を聞いたりして、とても大事なことなんだなっていうことが、すごくよくわかりました。

養護教諭ですが、その立場としては授業をする機会もないので、授業に限らず毎日接してる中

で子どもたちに教えられることなんじゃないかなって、すごく思い始めています。日々の生活にすぐ明日から使えるなあって思っていて、ちょっとワクワクしてるところです。（拍手）

【鳥居】ありがとうございました。明日M中に行くんですけども、はい、M中養護教諭のK先生をお願いします。

【養護教諭K】前にご案内いただいて、「診られる力」っていう資料も送っていただいて、ちょっと何年前かに私たちも養護教諭として、保健室で対応する際に、子どもがちゃんと話をするができるっていう力を身につけさせたいっていう研究をしたことがあったんですね。

それで、なんか共通することだなあって思って、ちょっと楽しみに、あまり期待せずに来たんですけど、実際、こうワークショップやってみて、授業をつくるっていうのはすごくなんか、私たちも実はこうやってみたいことで、できればいいなあっていうふうな気持ちになりました。

ただ、なかなかこう中学校とかだと、小学校もだと思うんですが、時間確保っていうのが最大の課題なんですね。いろんなところでいろんなこと、やりたいんですが、なかなかできなくてっていうような気持では…。明日先生がまたいらしていただいて、生徒の皆さんにお話をさせていただけるっていうことで、すごく楽しみにしております。今日の話のことなんかも、もしかして入れてくだされば（笑）ちょっと（鳥居：上手ですねえ）思っているところです。

【鳥居】はいありがとうございます。次に、保健師さんで佐藤薫さん、お願いします。

【佐藤】今日、午前中も先生の授業を参観させていただきました。ありがとうございました。保健師という立場と、子どもを持つ母親の立場でやっぱり「診られる力」、自分の思っているところを伝えられる力は伸ばしやりたいな、というふうに思っております。

今日は、いつも保健師さんとは話しますけど、養護教諭の先生であったり鹿角の先生であったり、他職種の人たちと一つの授業を展開することで、自分の持っていないところの引き出しを、すごく教えてもらえて、すごく良かったです。

わたしは、自分のグループ、たいしたこういい授業展開できたなあっていうふうに思っていたのですが、ほかのグループの話を聞いて、あ、そういう考えもあるんだなっていうことで、すごく勉強させてもらいました。本当にありがとうございました。私は田代です。先生、早口小学校にも（笑）来てください、よろしくお願いします。（笑）以上です。（拍手）

【鳥居】田代は大館市ですね。関係者がここにいますので、実現するよう動いてもらいますね。最後にもう一人だけ。母子保健事業に関わる方がいらっしゃるので、4グループの村上さん、感想をお願いします。

【村上】もう何十年も前の子育てを思い出しながら話し合ったんですけども、いろんなことを思い出しながら、話し合ったことが自分の子育ての時にあれば良かったなっていうのが、大変そう思いました。ありがとうございます。（拍手）

【鳥居】ありがとうございました。今日は鹿角の方から、そして大館の方からも駆け付けてくれて、一緒に参加していただきましたことを改めてお礼申し上げます。

今日行った研修テーマの「子どもの診られる力を育てる」というネーミングは、私がつけたものです。医師の研修現場で診察する力を称して「診られる力」と表現していることもありますが、患者側から、特に子どもを対象にした教育課題としての取り組みは、いまここで始まったところでは。その意味からも、北秋田市でこのようなワークショップをさせていただいたことは、ある意味全国で初めて、第一歩なんですね。

千歳市や鹿角市で試みの授業をさせていただきましたが、専門の皆さんと一緒に一つの授業を組み立てていくという、これはとても大事な一歩だと思うんです。それで、お願いします。実践をまずしていただきたいという願いです。現場の中で、日々の中で「これは試せるよ」というお話を聞いて、すごく勇気もらいました。

二つ目にお願いは、グループ発表の一つ一つを、北秋田市の仲間たちの授業構想として発信したいのです。私がプロジェクトチームのメンバーとして関わっている「北海道家庭医療学センター」のホームページの「診られる力を育てる」の中でアップさせてください。皆さんの了解を得たうえでアップするという前提にして、これを全国にまた知らしめることに対して、よろしいでしょうか？ よろしければ拍手をお願いします。（拍手）ありがとうございます。

また実践された時には、教えていただきたいと思います。近藤さんや教育委員会からは木村さんがいらしていますが、そちらのほうにちょっと、「こんな実践したよ」という記録でも、子どもの感想でも何でも構いません。そういうところから事は始まっていくんじゃないかなと思いますので、本当に重ね重ね、よろしくお願ひしたいと思います。

一つ、大事なことを忘れてました。テーマにある「子どもの診られる力」の「子ども」を消します。「子ども」を、「病気の人、障がいのある子や人、お年寄り」などに替えると、それぞれの「診られる力」に変わっていきますよね。

三澤教育長が言った「声に出せない」「言葉に出せない」人たちとどんな形で、学校の先生方も含めて関わっていくのかというのは、重要な課題だと思います。特にその子どもたち、その人たちが病に伏した時、添うのは学校の先生方であり、親であり、ドクターでありナースである、保健師であるというところで、特に保健師の場合は、障がい児をお持ちのお子さんたち、お母さんたちと関わることは多々あるかと思しますので、そういったところでも、ドクターにきちんとどうすればいいのかという伝え方を、是非していただければなと思います。すいません。

本当に、長時間ありがとうございました。（拍手）

【近藤（市保健センター保健師）】鳥居先生、ありがとうございました。4時までの予定でしたが、だいぶ暗くなってしまいました。グループワークを「子どもの健康を考える会」で開催したのも何年かぶりで、私たちも最初グループワークし始めた時はこの会場はすごく静かでストーブのファンの音しか聞こえなかったんですけども、多分子どもたちも、いろんな授業受けるときにそんな気持ちで、最初は緊張してやってると思います。

さっき三澤教育長もおっしゃったように、最初の導入がユーモアで、子どもを引き付ける力があれば、どんなふうにも授業が展開できるというお話を聞いたので、私たちもそういうのを自分たちの仕事とか、授業に生かしていきたいなというふうに思いました。本当に今日は鳥居先生、ありがとうございました。

では、今日の子どもの健康を考える会の学習会はこれで終わりになります。帰りは暗くなっていますので、お気を付けてお帰りください。

お疲れ様でした。（会場の「お疲れ様でした」の声と拍手）